

令和3年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立義務教育学校玉湯学園 後期課程）

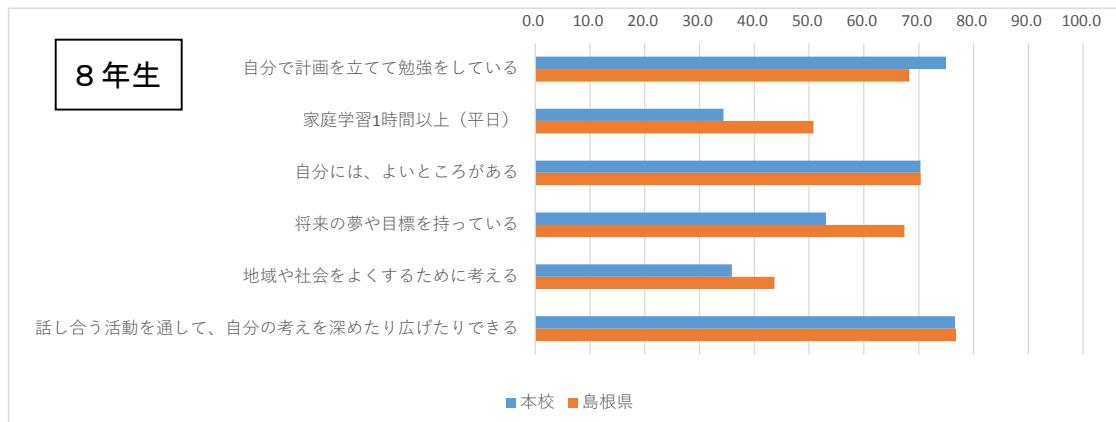
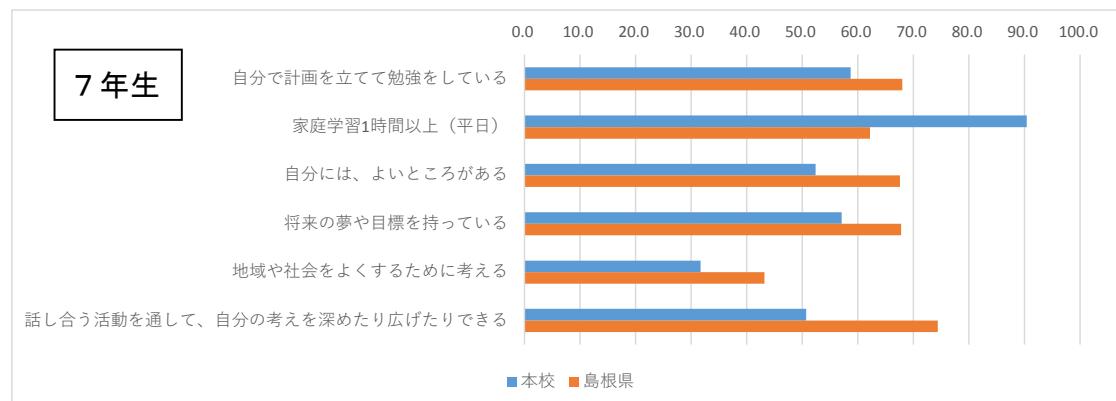
（1）学力調査結果から見られた成果と課題（○：成果 ●：課題）

7年国語	○毎時間、あるいは長期休業明け、全校一斉の基礎力テストなどで小学校からの漢字の復習をしてきたので、その成果が出ていると思われる。 ●書く力が不足しており、記述問題に弱い。授業では書く活動を入れるようにしている。引き続き取り組ませたい。	8年国語	○授業の帯单元で継続して漢字学習に取り組んでいることが、「漢字の読み、書き」の力になっている。 ○グループ学習や探究的な学習で多様な考えに触れる機会を設けたことで「読み取る」力がついてきている。 ●課題作文など「書く」機会が少なく、力がついていない。
7年数学	○数と式の单元では、計算プリントを丁寧に取り組み、生徒同士の学び合いもあり、学習内容が定着している。 ○問題文を読み、問われていることを要約する指導を徹底することで、文章題の立式ができるようになっている。 ●関数分野における学習内容の定着ができていない。	8年数学	○問題演習量を多く確保することで、計算等の基礎的な問題における正答率が上がっている。 ●関数分野において、グラフを読み取ったり、式決定をするところに課題がある。
7年英語	○帯学習でペアによる対話活動に取り組むことで、基本的な文の語順や、対話の流れに沿った英文を作る力は定着しつつある。 ●単語や語彙の正確なつづりが定着していないため、正しい英文を「書く力」はついていない。	8年英語	○ペア対話活動や単語練習により、対話の流れに沿った英文を作ったり、適切な語彙を使用する力は定着している。 また、英文の内容を読み取る力は定着しつつある。 ●伝えたい内容を、まとまりのある適切な英文で表現したり、内容を広げていく力が弱い。

（2）生活意識調査から見られた成果と課題（○：成果 ●：課題）

7年	○自主学習ノートや課題に丁寧に答えることで、真面目に取り組む習慣が定着した生徒が増えている。 ●自己肯定感を問う項目のポイントが低い。言われたことには一生懸命取り組むが、自分なりのめあてをもち、工夫して学習や活動に取り組める生徒が少なく、主体的な態度の育成が課題である。生徒自らが考え、実行する学習活動を様々な場面で取り入れていく。	8年	○定期テスト等に向けて、自分でどのように学習するかを考えて取り組むことができる生徒が多い。 ●平日の家庭学習時間が30分程度の生徒が多く、十分な家庭学習の時間が確保できていない生徒がいる。将来の夢や目標を持っている生徒の割合が県平均より低く、進路への意識を高める指導を行い学習時間増につなげたい。
----	---	----	---

（3）意識調査（教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています）



【受検者数】 7年生 63名 8年生 64名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。